令和６年度　京都府立南陽高等学校・附属中学校　学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
◆ 目指す人間像 進取の気性、敬愛の精神、雄健な心身を備え、新たな価値を創造する人。 ◆ Mission 主体的・探究的な学びをとおして、確かな学力と挑戦心を育み、変化の激しい社会を逞しく生き抜く基盤を培う。 ◆ Vision 学習活動や特別活動が高いレベルで充実しており、難関大学進学にも信頼のおける「生徒が育つ学校」となる。	◇　「挑戦」することを本校の教育の柱として位置づけ、学年集会や個別面談等、様々な機会をとおして生徒に働きかけた。進路に向けて、高い目標を堅持して努力を続ける生徒が増加した。 ◇　探究活動やグループワークの推進、ＩＣＴの利活用等をとおして、生徒一人ひとりの学びへの意欲を高める工夫を重ねた。普通科総合的な探究の時間の改善に道筋をつけることができた。生徒が自ら学ぶ授業への改善及びＩＣＴの効果的な利活用に向けて実践研究をさらに進めていく。 ◇　スパートゼミでは、生徒一人ひとりが目的意識を持って進路実現に向かうよう工夫を行った。主体的・自立的に学習し、高い目標に挑戦する生徒の育成に向けて取組の充実を図る。 ◇　生徒実行員会を中心に文化祭・体育祭を開催するなど、生徒が主体となって活動することに重点を置いた。中・短期の海外留学や国際交流等をとおして生徒の活動意欲や国際性を高めることができた。 ◇　オーストラリアターム留学を予定どおり実施することができた。実施後の教育活動がより効果的なものとなり、中高一貫教育がさらに充実・発展するよう研究を進めるとともに、円滑で安定した実施に向けた検討を行う。 ◇　限られた時間内に質の高い部活動ができるように計画・指導した。全国大会や近畿大会への出場、コンクールでの上位入賞、地域貢献活動などにより、生徒の満足度や活動意欲が高まった。 ◇　前年度に検討した業務改善策の実践などにより、業務負担の軽減が一部で見られた。	①　生徒への働きかけや語りかけ、さらには教職員の姿勢をとおして、「挑戦する文化」を校内に醸成する。生徒一人ひとりの個性や能力を伸ばし、「生徒が育つ」学校へと進化を図る。 ②　生徒が学ぶ授業や探究的な学びの実践、授業におけるＩＣＴの効果的な活用をとおして自らの興味関心や進路希望に合わせて主体的に学び考える力を育む。 ③　質の高い授業と難関大学合格に向けたスパートゼミ、自学自習を支える教材の開発・提供を効果的に組み合わせて、希望進路の実現を図る。 ④　生徒が企画・運営する学校行事・国際交流等の実施、生徒会活動・部活動・地域連携活動の活性化など、生徒の主体的・協働的な活動や社会参画の機会を充実させる。 ⑤　ＳＴＥＡＭ教育及びターム留学を軸とした中高一貫教育のさらなる充実・発展を図るとともに、ＤＸハイスクール指定を生かした探究活動を推進する。 ⑥　互いの人権や多様性を尊重し合い、信頼と思いやりで結ばれ、ともに成長できる人間関係を育む。 ⑦　教育目標をより明確化することで業務の効率化を図り、ワークライフバランスに係る具体的な取組の検討を継続して行う。

令和６年度　京都府立南陽高等学校・附属中学校学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

評価領域	重　点　目　標	具　体　的　方　策
教務部	主体的な学習者を育成するために、質の高い授業や生徒が主体的に学ぶ授業の在り方を検討する。	生徒の興味関心を高めながら「生徒が学ぶ」授業の効果的な取組について研究するとともに、内容を共有し協議する機会を学期に1回を目安に設定する。
		教員の授業改善の機会として、授業公開期間を学期に1回を目安に設定する。
	主体的・探究的な学びを実践するための効果的なICT活用の方法について検討する。	生徒の学びの意欲を伸ばし自ら学ぶ姿勢を育てるためにICTの効果的な活用方法について実践研究し、授業公開期間を中心にその内容を共有し協議する。
生徒指導部	生徒の主体的な活動を支える。	生徒会や各種実行委員会と連携して生徒が主体的に学校行事を企画・運営する能力を養い、「生徒がつくり上げる学校行事」を実現させる。
		生徒主体の効率的かつ合理的な部局活動ができるよう顧問をはじめとする関係職員との連携を密にする。
		生徒会活動のさらなる活性化を図る。
	組織的な生徒指導を実践する。	生徒の状況をきめ細かく観察し、生徒の心的変化を見逃さない体制を構築して全教職員で一貫した指導を行う。
		個々に応じた効果的な指導を行うとともに、協働的活動を支援する環境を構築する。
		生徒指導事案が発生した際は、関係教職員・家庭との連携を迅速に行うとともに情報共有を円滑に行う環境を構築する。
	生徒・教職員の人権意識の深化を図る。	教職員の人権意識の深化と具体的実践を促すため、教職員の人権教育研修会を適宜実施する。
		地域の団体や教育機関と連携しながら、生徒の人権意識を高める活動を企画・実施する。

令和６年度　京都府立南陽高等学校・附属中学校学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

評価領域	重 点 目 標	具 体 的 方 策
進路指導部	難関大学進学に向けた効果的な進学講習やスパートゼミを開講する。	進学講習の内容を教科・学年と検討・調整し、確かな学力の定着を目指した進学講座を編成・実践する。
		高3生対象のスパートゼミへの取組を通して、主体的・自立的に学ぶ力を身につけた集団を育成する。
		各々の学年との連携を密にして効果的なキャリア教育実施計画を立案・実施し、生徒の希望進路を実現するための進路指導の協働体制を強化する。
	「生徒の学びたい」を刺激する。	魅力的な自習室を整備するなど、自学自習をサポートするための環境を整備する。
		ICTを効果的に活用し、生徒が自身のキャリアを選択・決定していく姿勢を支える。
		進路委員を中心として、生徒が進路行事等に積極的に参画する体制を整備し、生徒と共に本校の進路指導を創る。
	各模擬試験のデータを分析し、指導に活用する。	学級担任・教科担当者が自らFINEシステムやデジタルサービスを活用して学習指導に活かせるように、教員集団としての情報分析力を高める。
		各模擬試験データを各々の学年と進路指導部の協働体制で分析し、情報を教員間で共有することにより、見通しをもった指導を行う。
保健部	「自分の健康は自分でつくり、守っていく」という意識を育む。	保健委員会発行の「well-being」や保健室だより、学年ごとの健康教育を通じて、正確でタイムリーな知識を伝える。
		欠席連絡フォームや健康調査、教職員間での情報共有を通じて、生徒の健康状況を把握し、体調不良者への適切な対応を行う。
	支援を必要とする生徒に、組織的・継続的に対応する。	学年部・教科担当者等と連絡を密にして生徒情報を共有し、学校適応指導会議においても連携を図る。
		特別支援教育コーディネーターとの情報共有に努め、必要に応じて外部の関係機関との連携を図る。
	「自分たちの学習環境は自分たちで整える」という意識を育む。	清掃用具の整理などの美化委員会活動、教職員による清掃指導の充実を通じて、校内全体の美化意識の向上につなげる。
		月例清掃等を定期試験や行事前に設定し、場にふさわしい環境を整える。

令和６年度　京都府立南陽高等学校・附属中学校学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

評価領域	重　点　目　標	具　体　的　方　策
図書部	読書活動を通じて、生徒が自ら学び、主体的に知識や教養を身に付ける力を育む。	新着図書の選定を十分に行うとともに、館内の書籍を厳選することで、生徒が良書を手に取りやすいように整備する。
		団体鑑賞などの行事に関連する本の展示や、ビブリオバトル・読書月間の活動等を通じて、図書館利用のきっかけづくりを行う。
		図書だよりやTEAMS配信を活用し、図書館の活動やおすすめ本の紹介などを行い、タイムリーかつ効果的な情報発信ができるよう工夫する。
	図書館での活動を通じて、想像力を膨らませ、創造力を高める場として活用できるようにする。	図書委員と共同して図書館の在り方を考え、より多くの生徒が効果的に利用できるように活動を行う。
		教科担当と連携し、授業や探究活動で利用できる書籍を増やし、知識だけでなく新しい価値を創造できる場を提供する。
		ベランダを開放したり館内の整備を進めたり、生徒にとってより過ごしやすい空間にすることで、多くの生徒が利用できるようにする。
企画研究部	国際交流活動を通じて生徒の主体性を育成する。	国際交流フェアなど留学・国際交流活動に関する広報を充実させることにより、生徒が積極的に海外交流に参加できる土台を作る。
		国際交流活動において、他分掌、教科、保護者や地域と連携を密にし、生徒が主体的に計画・実行できる土壌を作る。
	広報活動において、ICTの利活用を含む様々な方法を用いて、生徒の活動を校内外へ発信する。	ホームページやSNS等を利活用し、動画などのツールによる情報発信を適宜企画・実施する。
		オープンキャンパスなどの広報活動において生徒が主催・活動する企画を積極的に導入することで、生徒の主体的な取組を学校内外に発信する。

令和６年度　京都府立南陽高等学校・附属中学校学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

評価領域	重　点　目　標	具　体　的　方　策
探究推進部	中高一貫教育の俯瞰と充実	6年間の教育活動を踏まえた上で，保護者や教職員に特色的な教育活動の周知を図り，組織的かつ継続的教育活動の充実を目指す。
		中学の学年や教科担当との情報共有を密にし，教育活動に対してのサポートを行う。
	ダ・ヴィンチ，サイエンス，総合的な探究の時間の具体化と実践	南陽の魅力や在り方を踏まえた教育活動の計画・実行に携わり，新規事業を含め，その活性化を図る。
		学校内外に対して，教育活動の状況を発信し，南陽の特色の理解を図る。
	ターム留学の計画・実施・案内	2回の実績を踏まえた今年度の実践計画の策定を行う。また，帰国後のフォローアップを学校全体に広げていけるような教育活動を検討する。
		本校の求める留学プログラムの実現に向けて，適宜，ケーススタディーや講演会等を計画・実行する。
	デジタル人材育成の計画立案	本校が従来から実践しているデジタル人材育成に関わる教育活動を総括し，新たな教育活動との紐付けを行う。また，これらの教育活動に対する理解を教職員で共有するための研修を行う。
事務部	主体的、積極的に学校運営に参画する。	事務の専門性を生かしつつ、効果的な学校運営が行われるよう各分掌・教科と連携しながら事務を進める。
	校内の安心、安全、美化を推進する。	危険箇所を早期発見するため、月１回の点検を計画的に実施するとともに、柔軟に施設管理の改善を行い、教育環境の整備に努める。

令和６年度　京都府立南陽高等学校・附属中学校学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

評価領域	重　点　目　標	具　体　的　方　策
第1学年部	自ら高い目標を定め、失敗を恐れず挑戦する姿勢を身に付けさせる。	SHRやLHRで生徒に語りかけ、失敗が許容される雰囲気を作り、生徒が挑戦できる環境を整える。
		学校行事や部活動、国際交流など、高校生だからこそできる多様な経験を積むことを奨励し、視野を広げさせる。
	自立した高校生としての生活・学習習慣を定着させる。	意欲的に学校生活を送れるよう、規則正しい生活習慣を身につけさせる。
		教科担当者との連携のもと、授業を大切にさせ、家庭学習の習慣を定着させる。
		適宜面談を行い、生徒の自発的な学習姿勢を育み、進路に対する意識を高める。
	思いやりをもって、主体的に行動できるよう、生徒を導く。	学習活動や学校行事において、自分の頭で考え、自分のことを自分で決める機会を設ける。
		ICT機器を活用する力を身につけさせ、創造的な活動につなげる。
		他者を尊重し、学習活動や学校行事で他者と協働する姿勢を持たせる。
第2学年部	視野を広く持って高い目標に挑戦する心を育む。	南陽祭等、学校行事において、生徒自身で決定、実行する機会を多く作る。
		部活動やコンテスト、留学など、自主的な活動の場を広げられるよう、関係分掌と連携し効果的な情報提供を行う。
	自立した学習のための生活習慣の確立を支援する。	教科担当者と連携し、授業、定期試験を中心とした、基本的な学習習慣を確立するよう指導する。
		定期試験、模擬試験等の振り返りを丁寧に指導する。
	人権感覚を涵養し、多様な価値観を認めあう、すべての生徒にとって居心地の良い環境を形成する。	生徒指導部と連携し、人権学習を適宜実施する。
		教室や施設をきれいに使用し、協力して良好な学習環境を作り出すよう意識づけを行う。

令和６年度　京都府立南陽高等学校・附属中学校学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

評価領域	重 点 目 標	具 体 的 方 策
第3学年部	あきらめずに挑戦する姿勢を学年集団全体で形成していく。	あきらめないことや挑戦することの大切さを、学年集会や日々の授業で発信していく。また、模擬試験などの分析を踏まえて学年独自の学習支援を行う。
		学習活動のみならず、部活動や学校行事にも全力で取り組める環境を整える。
		進路指導を単なる卒業後の進路としてではなく、生き方の指導としての共通認識を持って指導する。
	主体的で能動的に学習する姿勢を身に付けさせる。	自習室や勉強スペースの環境を整える。
		iPadを活用してのスケジュール管理やタスク管理を推進する。
		自立した学習を促すための取組を教科と連携して行う。
	難関大学および海外大学合格に向けた取組を行っていく。	授業レベルの向上、集団としての目的意識の高揚を図り、最難関大学の入試に適応できる学力を身に付けさせる。
		難関大学・海外大学進学希望生徒に対して、教科・分掌と協力しながら支援する。
		教科・進路指導部と連携を取りながらスパートゼミや講習を最大限に活用する。
サイエンスリサーチ科	数理・情報分野における基礎学習・課題研究を行う上での基盤を構築する。	近隣の大学と連携し、当該分野における学習や課題研究の充実化を目指す。
		外部人材を活用した学習・研修会等を通じて、情報モラルや科学リテラシーの向上に努める。
	探究活動を通じて、文理横断的な学びを強化する。	「夏季実習プログラム」、「サイエンス講座」等の校外連携の取組を通じて、探究活動を行うことの意義や目的（学術的な重要性・社会との繋がり等）について学ぶ機会を充実化させる。
		ICTを利活用し、課題研究（自然科学分野、人文社会科学分野）の相互交流を活性化させ、多角的な視点や発想の醸成に努める。

令和６年度　京都府立南陽高等学校・附属中学校学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

評価領域	重　点　目　標	具　体　的　方　策
附属中学校	特色ある中高一貫教育の確立のための実践研究を行う。	自立した学習者の育成を目指し、ICTを活用しながら、生徒の主体的・探究的な学びにつながる授業研究、授業実践を行う。
	校内や校外の人材との交流を通して、人間的な成長を促す。	学習活動や学校行事に主体的に取り組ませるとともに、思いやりを持って協働する中で、仲間意識や豊かな人格の成長を図る。
		部活動やボランティア活動への参加を促し、各種検定やコンテスト等に挑戦する風土を醸成し、活動領域を広げ人間的な成長を図る。
	より高い目標を掲げ、主体的に学習する姿勢を身に付けさせる。	中高一貫校としての教育実践を踏まえ、生徒が相互に好影響を及ぼしながら、それぞれが「自ら学ぶ」集団を作り、確かな学力を身に付けさせる。
国語科	授業やスパートゼミの質を高めることにより、生徒の希望進路の実現及び社会生活に対応できる国語力を育成、伸長する。	難関大学の入試問題を研究し、その成果を授業やスパートゼミでの指導で活かすことにより、生徒の進路実現につなげる。また教科内で指導の成果を共有する。
		生徒の知的好奇心を高め、生徒が主体的に学ぶ意欲が高まるような授業を展開するとともに、生徒に読書のおもしろさを啓発し、生徒の視野を広げる。
	中高一貫教育の6年間を見通した指導体制を更に充実・発展させる。	生徒を多面的に評価するために、評価方法や評価材料を検討・改善し、効果的な指導につなげる。
		教材や生徒に関する情報共有を密にし、切れ目ない教育活動が行える中高一貫校の強みを活かした指導を行う。
地歴・公民科	主体的・対話的で深い学びを実践し、自立した学習者を育む。	中高一貫教育の6年間を見通した指導内容の整理を行い、生徒が自立して学習できるようになるための指導体制を確立させる。
		主体的・対話的で深い学びについて、実施内容・評価方法を教科内で検討し、より効果的な学習につなげる。
		ICTを活用した生徒主体の授業の実践を推進し、実践内容を検討・共有する機会を設ける。
	難関大学進学をはじめとする希望進路の実現を支援する指導を行う。	模擬試験の分析や入試傾向の分析を行い、指導内容を検討・共有する機会を設ける。
		スパートゼミ、進学講習などを効果的に活用し、生徒の希望進路実現に向けた取り組みを進める。

令和６年度　京都府立南陽高等学校・附属中学校学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

評価領域	重 点 目 標	具 体 的 方 策
数学科	学力の3要素をすべての生徒に身に付けさせる指導方法を確立する。	個に応じた学習指導を行うことで、基礎的な数学力を定着させるとともに、個々の数学力がより向上するような質の高い授業を展開し、生徒自らが学ぶ姿勢を身に付けさせる。
		希望進路に応じた課題設定を行うことで、計算力及び論理的思考力、記述力を養うとともに、適宜発表活動等を取り入れながら、希望進路が実現できる数学力を培う。
		BYODや中学での授業の実践を教科内で共有し、個々の教員がICTをより一層効果的に使えるようにすることで、生徒の数学的な判断力・表現力の育成につなげる。
	数学を楽しみ、主体的に探究する精神を育成する。	学年や実態に応じて、生徒が興味関心を持って主体的に学び合えるような教材や指導方法を授業参観や情報交換を通して教員間で共有し、実践する。
		数学検定やその他コンテストへの積極的な参加を呼びかけ、数学の魅力・面白さに触れたり、普段とは異なる数学の問題へ挑戦したりする機会を増やす。
		数学の枠を超え、教科横断型授業を展開し、数学の必要性・有用性を生徒に実感させる。
	中高一貫教育および難関大学進学に向けた指導体制の充実及び教科指導力の向上を図る。	6年間を見通した授業の進度及び指導方法について、適宜教科会議で共有し、進捗状況を確認する。
		スパートゼミ・夏期講習・冬期講習の内容や進捗状況について、教科で共有する場を適宜設定し、難関大学進学に向けた指導方法を確立する。
		「自律した学習者」の育成に向けた授業のあり方、課題設定のあり方について、6年間を見通した段階的指導を考え、実行する。
理科	主体的に学ぶ生徒の育成	ICTを活用した主体的・対話的な授業を行い、思考力・判断力・表現力の育成を行う。
		個別最適な学びを目指し、効果的な授業の在り方や指導と評価の一体化について研究する。
		模擬試験等を活用することで生徒の個々の学力や課題を共有するなど、学力伸長に向けた組織的な指導を展開し、最難関大学合格など自ら高い目標をもって進路を切り拓く能力を養う。
	授業を起点とした 探究活動の深化	観察・実験を充実させることで理科への興味を深めるとともに、生徒の挑戦心、自主性を育て、探究活動等において外部発表での受賞を目指すことができる生徒を育成する。
		中高一貫教育の6年間を充実させ、授業や実験の方法を見直すとともに、その成果を他クラスの授業だけでなく、サイエンス・総合的な探究の時間においても活用する。

令和６年度　京都府立南陽高等学校・附属中学校学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

評価領域	重　点　目　標	具　体　的　方　策
保健体育科	卒業後も豊かなスポーツライフを実現する資質を育てる。	自己の体力の現状を把握し、体力向上の方策を考え実践させる。
		運動の場面で、公正、協力、責任、参画に対する意欲を高める態度を養う。
		学習指導要領改訂の方向性に合わせ、生徒の実情に応じた選択制授業を実施していく。
	現代における健康課題について知識、理解を深める。	課題学習の研究の質を高め、現代における健康課題を幅広く考える視点を養う。
		薬物乱用について正しい知識を身につけ、適切な行動をとることができる態度を養う。
芸術科	表現や鑑賞の学習を通して、多様な芸術についての見方・考え方・捉え方（思考力・判断力・表現力）を学び、芸術を愛好する心情を育てる。	表現や鑑賞の基礎・基本的事項をしっかりと把握させる。
		鑑賞や制作・発表を主体的に行い、多様な表現活動を通して互いに認め合う力が身に付くよう支援する。
	自分の言葉で作品を鑑賞・批評する力を育む。	日本の伝統的な芸術と西洋の伝統的な芸術の類似点や相違点を感受させ、主体的に表現することができる力を養う。
		グループ発表・学習を行い、言語活動の拡充を図り、自らの言葉で諸芸術を批評できる心情を育てる。
	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育む。	教員間で研究授業や互見授業週間、研修会等を通して、教授方法などを研究し、授業改善に努める。
		学習者の知的好奇心を喚起させ、生徒が主体的に活動することができる環境づくりに努める。
		多様な芸術について理解を深めさせるため、タブレットやICT機器を活用し、教科指導力の向上に努める。

令和６年度　京都府立南陽高等学校・附属中学校学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

評価領域	重　点　目　標	具　体　的　方　策
英語科	基礎学力の定着 自立した学習者の育成	CAN-DOリストに従い、４技能５領域（聞くこと・読むこと・話すこと（やりとり・発表）・書くこと）の活動を生徒の実情に合わせて授業に取り入れ、各自の到達度を確認させ、目標を設定させる。
		目標達成のための学習方法を具体的に指導し、生涯に渡り、英語を学び続ける姿勢を育む。
		AIアプリ等の教育用アプリについての研究・実践を進める。
	英語でコミュニケーションを図りたいという態度の育成	知識を統合し、目的・場面・状況に応じて活用する力を身に付けさせる。
		自分の意見を論理的に発信する力を養成するとともに、他者の意見を尊重する風土を醸成する。
		分掌やALTとの連携を密にし、生の英語に触れさせ、学習成果をアウトプットする機会を充実させることで、生徒の英語学習への内発的動機付けを高める。
家庭科	主体的・協働的な実践活動・体験活動を通じて、よりよい生活の実現を目指す。	家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践する機会を単元または学期毎に1回以上持つ。
	授業におけるICTの効果的な活用を通して、生徒の興味関心や生活改善に向け、主体的に取り組む力を育む。	ICTの利活用が授業内容の充実に繋がるよう効果的な活用の機会を昨年より増やす。
		ICTの利活用について、効果的な学習指導のための研修を3回以上行う。
情報科	情報について科学的な見方や考え方を養い、活用できる知識や技術を修得させる。	情報の科学的理解と、情報の収集、分析、活用、発信等の実習を通して、問題の発見とその解決の方法を習得させる。
		日常生活を題材にした課題を通して、現在の情報社会が抱える問題の解決について考えるとともに、コンピュータやネットワーク構築の仕組みに興味を持ち、家庭内などの小規模ネットワーク構築および管理ができるようにする。
	情報倫理を身につけ、情報社会に積極的かつ公正に参画する態度を育てる。	知的財産権を含む権利について深く学び、日常生活における身近な法規を理解し、著作権の保護、肖像権への配慮に努め、情報社会の一員として社会に参画する態度を養う。
		ソーシャルメディアやインターネット等の利便性だけでなく、情報の信憑性の低さを理解させるとともに、BYODに関わる各アプリの個人アカウント等の、機密性の高い情報の管理力を養う。
	主体的に学ぶ生徒を育成する。	昨年度に引き続きタイピング能力の向上に努め、生徒一人ひとりが自身の考えをプレゼンテーション作品やプログラムとして作成できる基礎技術を養う。
		プログラミングの基礎である順次処理、繰り返し、ループについて学習しつつ、どのように組み合わせることでコンピュータを思い通りに動かすことができるか試行錯誤させる。